

まち・ひと・多面体 地域における注目すべき取組

環境・公害の歴史を後世に伝える NPO法人 環境研究会かわさき

環境・公害の歴史『かたりべ』として

NPO法人環境研究会かわさき(以降「同会」と略します)は、川崎がかつて経験した公害を現状まで回復させたことなどを「アーカイブズとして記録にまとめる」「過去を知り未来のよりよい環境の創造を目指す」「環境・公害の歴史の『かたりべ』としてこの経験を後世に伝える」などを目的に2012(H24)年4月に設立しました。



▲ 会員のみなさん

会員は、川崎環境局のOBを中心に現役の職員、他の自治体のOBも含めて大気汚染や水質汚濁などの公害対策に取り組んできた人たちです。
(会員数:2020年3月現在26名)

「川崎の環境 今・昔」を発行



▲ 第1巻 大気編・第2巻 大気汚染・自動車対策編
・第3巻 水環境編・第4巻 廃棄物編
※興味のある方は、E-mail でおたずねください。

同会では、環境に関心のある市民・中高生から新たに業務に携わる方までを対象にした「川崎の環境 今・昔」をシリーズで発行してきました。表やグラフ・写真を多数掲載し、分かりやすい冊子となっています。

第1巻 大気編(2014年9月_全43頁)

年度ごとの市内の出来事や行政の施策、国や県の動きをまとめる。1972年の市公害防止条例など重要項目には解説を加えた。

第2巻 大気汚染・自動車対策編(2016年1月_全64頁)

主に高度成長期の公害や、その後のディーゼル車排ガス問題への市の対策など。

第3巻 水環境編(2017年1月_全83頁)

水質汚染による漁業や養殖業への被害、人口増加に伴う生活排水の問題や下水道事業など。

第4巻 廃棄物編(2019年3月_全155頁)

「廃棄物対策の経緯と特徴」「年表と主な出来事」、参考文献、資料で構成。川崎市の廃棄物事業の立ち上げから、バキュームカーの開発によるし尿収集・処理、ごみの毎日収集・全量焼却時代からごみの減量化、再資源化の時代へ。

イベント&出前講座などで環境学習

年間を通して様々な活動を推進しています。イベントでは、環境すごろく「エコライフゲーム」や手づくり環境紙芝居、模型燃料電池車などを通じて、環境にやさしい生活スタイルや次世代エネルギーに関する知識を親子で楽しみながら学べます。



▲ 科学と遊ぶ幸せな一日

出前講座では、工都川崎の発祥から始まった公害問題とそれに対する市民や事業者の動きと行政が取り組んだ公害対策を解説する講座の他、各種環境対策に関する講座を行っています。さらにこれからの環境問題についても分かりやすく説明しています。

全国初の『バキュームカーの開発』・『一般廃棄物の鉄道輸送』

同会の井上俊明理事長・林久緒副理事長・吉川サナエ事務局長より同会の活動について伺いました。



▲ (左から)井上さん・林さん・吉川さん

「日本一厳しい大気汚染への総量規制は企業による公害防止技術や省エネルギー対策への取組みにつながり、それらは公害克服のための技術革新や産業活性化の契機となった。」と話します。

また、糞尿汲取り用のバキュームカーは1951(S26)年、川崎市が全国に先駆けて開発・導入し、その後、衛生的かつ効率的であるとの理由で全国へ普及しました。1955(S30)年に開発された機械式ごみ収集車も同様に瞬く間に全国に広がりました。



▲ クリーン川崎号(一日一往復)

一般廃棄物の鉄道輸送は1995(H7)年に全国初の取組として開始されました。北部地域で収集された普通ごみ、粗大ごみ、発生した焼却灰の一部を専用コンテナに載せた「クリーン川崎号」で梶ヶ谷ターミナル駅から南部の末広町駅まで鉄道輸送されています。この方法は輸送効率や安全性のみならず環境負荷の低減につながる施策となりました。

■ 問合せ NPO法人環境研究会かわさき
E-mail kanken_kawa@yahoo.co.jp